

2015年 早稲田大学 人間科学部 英語解答例

- [I](i) 1 - C 2 - D 3 - D 4 - D
(ii) 5 - D 6 - A 7 - D
(iii) 8 - B 9 - D 10 - B
(iv) 11 - A 12 - A 13 - A
(v) 14 - C 15 - A 16 - D
(vi) 17 - C 18 - D 19 - B
(vii) 20 - A 21 - C 22 - D
(viii) 23 - B 24 - D 25 - B

- [II] 26 - I 27 - F 28 - J 29 - F 30 - I
31 - L 32 - L 33 - B 34 - I 35 - H
36 - E 37 - H 38 - F 39 - I 40 - L

- [III] 41 - E 42 - B 43 - B 44 - B 45 - C
46 - C 47 - E 48 - B 49 - B 50 - B

※コメント 比較的短い内容の読解問題が8題、前置詞を空所に入れる問題が1題、正誤問題が1題で、例年どおりの形式となっている。特に前置詞の問題については、前置詞の基本用法やイディオムの知識のみならず、動詞・名詞・形容詞などをどのように用いるかという語法の知識とも関連しているので、日ごろの知識の積み重ねが問われている。

2015年 早稲田大学 人間科学部 国語解答例

(一)

[出典]

奥井智之『社会学』[第2版] 「8章 知識」の1節。数カ所、語句や文の省略がある。

[解答]

- 問一 a イ b 問二 ホ 問三 ニ 問四 ロ 問五 ホ
問六 ロ 問七 (1) ロ (2) イ 問八 イ 問九 イ 問十 ホ
問十一 ロ 問十二 イ

(二)

[出典]

古文：『浜松中納言物語』の冒頭部分。

漢文：『史記 卷第七十五』「孟嘗君列傳第十五」の一節。途中一つのエピソードが省略されている。

- 問十三 ハ 問十四 A ニ B ホ 問十五 ホ 問十六 ニ

問十七 (1) ニ (2) ハ (3) ホ

[講評]

(一) が現代文、(二) が古漢融合問題(ただし、(二) は古文、漢文をほぼ独立した問題として扱うことができる) という形式は昨年度と同じ。ただし、(一) の現代文は、昨年度がエッセイ的評論であったのに対して、今年度は本格的な評論に代わり、本文の分量も増えてかなりの長文となった。

(一) は、一文、一文は明快で平易な文なのだが、話題が横滑りするように変化していく文章になっている(特に、前半部分) ので、設問を解く際に、ミクロな視点で傍線部自体の意味や傍線部の直前直後の文の関係を考えるべきなのか、マクロな視点で段落や文章全体の趣旨を優先すべきなのかが絞りにくい。それに輪をかけて設問および選択肢も、どのレベルで解釈すべきかに迷う問題が多い。問二は、ハとホのどちらを選ぶかが難しい、直前の指示語「その意味では」が、その直前の「労働によって、人間が世界を創造してきたこと」を指すところから、「ホ」を答えとする。問三は、傍線部中の「媒介」に着目して、「ニ」を答えとする。問四は、傍線部自体が「人間の食事は、生物的(動物的)活動であると同時に、知的活動でもある」ということ述べていることは明白であるが、「人間の食事の知的活動」をどのレベルで考えればよいかについては、本文中では特に説明されていない(多分、作者としては、読者に様々なレベルで考えてほしいということなのであろう)。したがって、ここでは「食事」と「文化」の関係を最も一般的にまとめている「ロ」を答えとする。問七(1) は、「フーコーの説」自体についてではなく、「筆者がここでフーコーの説を紹介した理由」について尋ねていることに注意する。フーコーの説を紹介する直前に「たとえば」があり、さらにその直前に「知識の発展段階説が……一ソウされてしまったわけではない」とあることから、「ロ」を答えとする。問八は、傍線部直後の言い換えを表す接続語「要するに」に着目して、その後続く「…「真実はわれにあり」と信じてやまないのが学問の世界である。」を言い換えている選択肢を探す。

(二) の古文は、比較的読みやすい文章であるが、設問は見かけほど簡単でないものも含まれている。問十四は、設問部分が直前の「蒼波路遠し 雲千里」と対句関係にあることに着目する(どちらも『和漢朗詠集』所載の同じ漢詩から引いたもの)。つまり、「蒼◀ A」「千◀ B」という関係をつかむ。問十五は重要古語「よしなし」と完了の助動詞「つ」、詠嘆の終助詞「かな」に着目した上で、文脈も考慮する。特に「いとよしなきこと」をした人物が「いはけたるもの(子どもじみて思慮分別が足りない者)」である点に注意する。問十六は、「ふるき心」を「おぼへける(思い出された)」のが誰かを考える。

漢文の方は、文章、設問ともに基本レベルの問題。中では、「上・中・下点」まで用いる(3) がやや難しいかもしれないが、落ち着いて考えれば、句形の基礎的な知識の組み合わせで解くことができる。